

訪問看護師を対象とした在宅輸血連携研修会の実施について

大橋 晃太¹⁾²⁾ 太田 祥一³⁾ 飴谷利江子⁴⁾ 石丸 文彦⁴⁾ 藤田 浩⁵⁾

キーワード：在宅輸血，訪問看護ステーション，在宅輸血連携研修会

我が国は高齢化に対し地域包括ケアシステムを構築し、地域医療への移行を加速している。輸血実施の場についても、地域の小規模医療機関や在宅での実施を求める声が、血液内科を中心に医療者側・患者側ともに大きい¹⁾。一方で、移植医療の一つである輸血について十分な設備・知識のないままに在宅輸血が普及することへの問題も指摘されている。日本輸血・細胞治療学会では2017年に在宅赤血球輸血ガイド²⁾を公開し、適正な実施を促している。輸血実施の判断は医師が担うが、実際に地域医療の現場での担い手としては、訪問看護師の役割が大きい。

本誌65巻1号に掲載された論文において、藤田らは東日本での訪問看護ステーションにおける輸血実績に

関するアンケート調査について報告している³⁾。藤田らの報告では、東日本の2,480施設に対して調査を実施し、在宅輸血の実績がある施設は81施設(8%)であった。結果に地域差がみられ、東京都では256施設中37施設(14%)と最も高かったが、輸血実績のない都道府県も多くみられた。輸血実施する上での問題点は、輸血時の患者観察(滞在時間が長い、副作用・急変時の対応など)が最も多かった。また輸血実施がない施設で輸血を行わない理由として、依頼がない・適応症例がないという意見が最も多く、続いて同様に、輸血時の患者観察の問題が挙げられている。これらの訪問看護師の不安を解消していくことが、在宅輸血の普及には必要である。

第1回 在宅輸血連携研修会
～これから在宅輸血にかかわる方々へ～

近年、地域包括ケアシステムの元、輸血の継続を望まれる患者様の在宅移行も増加しています。在宅赤血球輸血ガイド(日本輸血・細胞治療学会)に代表される、指針も提示されてきていますが、現場での輸血実施には、在宅医に加えて、担い手となる訪問看護師の活躍が不可欠です。より多くの患者様がその恩恵を享受できるよう、必要なノウハウを習得できる研修会を開催いたします。

《プログラム》(敬称略)

I.在宅輸血の必要性と実際 ～訪問看護の役割～
大橋 晃太(トータス往診クリニック院長・血液在宅ねっと世話人)

II.訪問看護ステーションアンケート調査結果について
藤田 浩(東京都立墨東病院 輸血部 部長)

III.血液製剤の取り扱いについて(模擬製剤での実習)
飴谷 利江子(東京都赤十字血液センター)

IV.輸血中のトラブルへの対処について
太田 祥一(恵泉クリニック院長)



図1

第1回 在宅輸血連携研修会(令和2年1月17日実施)

- 1) トータス往診クリニック
- 2) 血液在宅ねっと
- 3) 医療法人社団親樹会恵泉クリニック
- 4) 東京都赤十字血液センター
- 5) 東京都立墨東病院輸血科

[受付日：2020年5月10日，受理日：2020年7月27日]

そこで、我々は在宅での適正な輸血の適応、実施手順、算定上の処理、急変時・緊急時の対応、現状での問題点等を修得できるよう、訪問看護師を主な対象とした在宅輸血連携研修会を企画した。第1回として、2020年1月17日(金)に本研修会を開催したので報告する(図1)。当日は平日夜間であったにも関わらず、合計92名(うち看護師68名、医師15名、薬剤師1名、その他医療関係者8名)が参加した。実施後のアンケートでは、回答者77名中69名が満足と答え、概ね参加者の要望に応えられた。一方で、より具体的な事例についての提示が欲しかった等、改善を要する点もあった。当初は在宅輸血の経験のない訪問看護師を対象に企画したが、実際には参加した看護師の大半は在宅輸血の経験があり、他施設との情報共有やスキルアップのために参加していた。今後は輸血の安全管理向上を前提として①新規に在宅輸血実施を検討している訪問看護師への導入としての研修会 ②既に実施している訪問看護師同士の情報共有や協力を促すような研修会 の両者が必要と考えられた。同時に、在宅診

療所に対して在宅輸血を適正に実施できるための研修会も求められる。今後、地域性や医療提供体制をふまえて必要性に応じ、全国でこのような研修会を企画し、血液疾患をはじめ輸血を要するが在宅療養を希望する患者の希望を叶えられるようなシステム作りをすすめていきたい。

著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

文 献

- 1) Ishida T, Ohashi K, Okina C, et al: Characteristics of palliative home care for patients with hematological tumors compared to those of patients with solid tumors. *Int J Hematol*, 110 (2): 237–243, 2019.
- 2) 北澤淳一, 玉井佳子, 藤田 浩, 他: 在宅赤血球輸血ガイド. *日本輸血・細胞治療学会誌*, 63: 664–673, 2017.
- 3) 藤田 浩, 薬師寺史厚: 東日本での訪問看護ステーションにおける輸血実施に関するアンケート調査. *日本輸血・細胞治療学会誌*, 65: 112–116, 2019.

WORKSHOP FOR THE HOME-VISIT NURSES FOCUSED ON BLOOD TRANSFUSION AT HOME

Kota Ohashi¹⁾²⁾, Shoichi Ohta³⁾, Rieko Ametani⁴⁾, Fumihiko Ishimaru⁴⁾ and Hiroshi Fujita⁵⁾

¹⁾TOTUS Home-Care Clinic

²⁾Hemato-Homecare Network

³⁾Keisen Clinic

⁴⁾Japanese Red Cross Tokyo Metropolitan Blood Center

⁵⁾Department of Transfusion Medicine, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital

Keywords:

Blood Transfusion at Home, Home-Visit Nurse Station, Workshop Focused on Blood Transfusion at Home